

フォーラム

現 地 レ ポ ー ト

平成15年度過疎地域自立活性化優良事例表彰 総務大臣賞受賞

普段着の「にころ」からのふれあいを目指して

～輝きだしたたくさんの「光」(地域資源)から～

▶「日本国」登山イベント(小保集落



新潟県

さん ぼく まち

山北町

△山北町の概要▽

山北町は新潟県の最北端に位置し、海、山、川ありの素晴らしい自然いっぱい町です。総面積は283・91km²でその内の約93%が山林であり、わずかな農地と宅地の中で生活をしています。

海岸線が約26kmあり、全線が新潟県立自然公園に指定されています。また重複の指定ですが、南部海岸11kmは、国の名称天然記念物に指定されている「笹川流れ」という大変風光明媚な海岸線を有しています。また、海岸線には県営の漁港を含む5つの漁港があり、そこから水揚げされる漁獲高は県内3位です。

一方、山間部には「日本国」という珍名の山があります。標高は555mで麓集落の方々が登山道をよく整備され、子供からお年寄りまでが気軽に、軽装でハイキングができることで人気があり、年間の登山者数は約1万2千人と、町としても山間部の観光の目玉と言つことでPRに努めています。年間の山北町全体への誘客数は約50万人前後です。

本町の人口が最も多かったのは昭和25年でした。約1万5千人強の人



フォーラム

が現在の山北町区域に住んでいました。その50年後の平成12年国勢調査人口は25年対比約53%にあたる7,839人でした。50年経過したら人口が半減したと言っても過言ではありませんでした。

その時の高齢化率は約33%で県平均を10ポイント以上も上回るという急激な過疎に伴う高齢化の進行している町です。

△過疎と高齢化の中で▽

こんな状況に危機感を抱き、脱却をすべく様々な取り組みを町民の皆さんと一緒に取り組んでいるところです。具体的には過疎対策、高齢化対策、少子化対策、嫁婿対策、若者の定住対策等です。そして、地域が活性化するためには、やはり観光産業の確立対策が欠かすことのできない重要な課題との認識から、平成



▶ 過疎の山田

元年に「山北町観光開発基本計画」を策定したところで。

その内容ですが、当時の主流であった大型のリゾート開発とは全く異なった地域にある自然、伝統、生活文化、そして日常生活を基本的資源とするまちづくりの取り組みでした。そして、着実に実践するために5つの基本理念を掲げています。

(1) 48集落の日常生活を基本的資源とする地域づくり

(2) 山北の日常生活を分かちあえる開かれた地域づくり

(3) どの集落も一人ひとりが主役になれる地域づくり

(4) 暮らしを支えてきた自然と楽しくつきあえる地域づくり

(5) 郷土の培った知恵や伝統文化が息づいている地域づくり

この「山北町観光開発基本計画」を具現化していくために、平成元年度から取り組んだのが「魅力ある集落づくり事業」です。

△「光」さがしは意識改革から▽

「魅力ある集落づくり事業」は、平成元年当時の全国的な大型観光ブームの中で他に例を見ない取り組みとして、期待と不安の中スタートしました。

最初に、48集落で25日間にわたり「集落座談会」を開催し事業の説明意見交換などを行いました。これまでも異なる取り組みに「本来町が行うべき仕事をなぜ自分達が」などの戸惑いや不満とともに「何でも町に頼るのではなく自分達でも何かを」

という前向きな意見も聞かれました。出席者の延べ人数は1,182名とかつてないほどの高い出席率に、この取り組みに対する関心の高さが伺われました。その後48集落で委員会が組織され、年齢、性別、職業を問わず幅広い層から委員が選出され、これまで地域づくりへの参加機会の少なかった、若者や女性も多く加わり、これまでにない盛り上がりを感じられました。

委員会が組織され最初に取り組んだのが「生活文化資源調査」です。これは集落の「光（宝物）を再発見するための調査で、海や川などの自然、伝統芸能、郷土料理、名人・達人などのあらゆる「地域資源」を調査しました。「自分達の集落には何もない」とよく言います。集落の由年寄りから山、沢、清水、名称の由来などを聞いていくうちに、集落を再認識し、「ないないづくし」の決めつけから「ありありづくし」への意識改革にもなりました。

次に取り組んだのが計画の策定です。事業計画は集落の合意の下で行い、実行可能な「等身大」の計画であることを条件に作成されました。集落住民にアンケート調査を行ったり、会合を10回以上重ねる集落もあり、当初提出された計画は約200件あまりにのぼり、集落の知恵と汗の結晶が表れました。

事業の実施にあたっては、その目的をより効果的に達成するために「集落のみんなの手づくり」により行われました。中でも「集落標示看板」

は、山北町の木である「杉」を活用し、景観に配慮したデザインを取り入れ全集落で整備されました。自分達の集落の力に合わせた「等身大」の事業を着実に実践していくことにより、集落への愛着、そして自信と誇りにつながっていききました。

△手づくりの交流で「ファン」を増やして▽

輝き始めた「地域資源」をいかし、訪れる人と地域の人たちが交流できる体験メニューとして「笹川流れ物語り」を平成9年に整備しました。ありのままの山北町とそこに暮らす人々が普段の生活を介して、訪れた人とふれあうことにより「山北の人」を好きになってもらう、ひいては山北の「ファン」になってもらうことがこの取り組みの目的です。山里伝統の生業「炭焼き」や浜の赤ちゃん達が教える「干物づくり」、昔から語り継がれてきた「さんぼくの



▶ イベント準備に忙しい塾生

フォーラム

昔話、集落づくり事業により整備した「清水」を巡るものなど、山北町の日常が体験できる内容です。飾らず、気取らず、より本物を体験してもらうことにより毎年多くの体験者が訪れ、平成14年度には約1万2千人が訪れています。訪れた人から「これはうまい!」「ここがきれい!」「とても素晴らしい!」などの言葉が受け入れ者の自信と誇りにつながり、新たな取り組みや相互のつながりに発展しています。

「さんぽく生業の里」のある山熊田集落は、伝統の織物「しな織り」や「アク笹巻き」地域特有の「郷土料理」、焼畑農法による「赤かぶ漬け」などの地域固有の「生業」が息づいてきましたが、人口の減少による後継者不足などにより衰退してきていました。平成12年にこの地域固有の「生業」をいかした交流により地域を元気づけようと、地元有志により設立されたのが「さんぽく生業の里企業組合」です。

「かあちゃん達」の「オラも何かやりて!」の発想から始まった起業は、昨年4千人余りが訪れ、地域産物の活用による消費拡大、人々の交流拡大による地域活力の向上につながっています。

一方、名峰「日本国」を中心とした自然と出羽街道の宿場の歴史的なまちなみ、山菜、伝統料理などの地域産物をいかして地域を元気にしようとする取り組みでいるのが、「小俣ふるさと楽校」です。自然景観や町並の保護をしながら「樹木銘板」や

「屋号標示看板」の設置などを行っています。また、地域の産物を訪れた人に触れてもらおうと「日本国ふるさと市場」の開設や郷土の味を盛り込んだ「小俣御膳」などを提供しています。昨年、「日本国」登山や地域の魅力をアピールするイベントを開催し約1万2千人の人が「小俣」を訪れています。

各集落で「地域資源」の再生・創出・活用による交流の拡大で、地域の活力や自信と誇りの醸成につながりました。このことが、山北町内の若者への地域づくりの取り組みへの波及と、後継者対策、嫁婿対策の取り組みへとつながっています。

毎年4月におおむね18〜40歳代までの若者を対象に公募し、今年で8年目になる「夢21・さんぽく塾」は山北町を知る活動「山北めぐり」や、地域伝統の生業を学習する「赤かぶ栽培」、自らが主催し地域の皆さんと共に行うことで毎年大勢の参加者にぎわう雪だるま作りのイベント



▶「スノーマンがやってきた!」イベント

「スノーマンがやってきた!」などを行っています。すべての事業は「塾生」がそれぞれ担当に分かれ企画し、塾生全員で取り組んでいます。それぞれが役割を持って行うことにより新たな人材の発掘と自信を生み、新たな活動の発展にもつながっています。

嫁婿対策として平成13年に取り組み始めた「週末百姓やってみ隊」は、素朴な農作業や伝統の生業を通じた交流を行っています。町外者を「百姓隊」として迎え入れ、町内で作業を手助けする皆さんを「サポート隊」として交流を行っています。

1回限りの交流イベントではなく、毎月、農作物の生長とあわせ山北町を定期的に訪れてもらうことにより、農業などをおとした地域の魅力や人情味あふれる山北町の人の魅力を伝えていきます。今年、3名が「山北町に住んで農業をやりたい」との思いで定住を決めています。

平成13年4月にオープンした施設



▶「週末百姓やってみ隊」

「八幡」は、宿泊、温泉入浴などの利用のほか、体験交流の受け入れ窓口として「笹川流れ波物語り」の受け付け、学生の合宿受け入れなどで、年間利用者は1万2千人を超え新たな出会いを生んでいます。

▲輝き続けるために▽

地域の皆さんが主体となり取組みを進めてきた山北町の地域づくりは今、大きな過渡期を迎えています。

山北町を訪れて地域の皆さんと交流していく人々は年々増加の傾向にあります。来訪者で活気に沸く集落また「この町に住みたい」「この町で働きたい」などのU・E・I・ターン希望者の声も聞かれます。しかし反面、活動が停滞している集落「何をすればよいのか」分からないという集落も見受けられます。全体的な交流人口は拡大していますが集落間で意識の格差が現れてきているようです。

今一度原点に戻って、開かれた地域づくりを自分達の手により「等身大」で行うことが必要と考えます。そのために、各集落で主体的に事業を実施するためのプランづくりの推進と、集落個々の取り組みを町全体の面的な活動に広げ交流人口の拡大、定住者の受け入れ等を推進していきたくと考えています。

「住んでいて良かった」、「ここに住んでいたい」と思える町づくりを今後も皆さんと共に進めていきたいと考えます。

(山北町長 大滝 平正)

情 報

カプセル Now & New

地元産そば粉の消費拡大を推進 青森県 平内町

県の補助事業として地元産そば粉の消費拡大を模索してきた町は、ふるさと特産品推進協議会を組織し、地元産そば粉一〇〇%の新商品開発に成功。そばの販売で利益を上げる見通しが立ったことから、平成十六年度からは町単独事業としてそば粉の消費拡大に取り組んでいく。

自然と歴史を生かしたまちづくり景観条例制定へ 岩手県 平泉町

町は、「平泉の自然と歴史を生かしたまちづくり景観条例」を三月議会に上程した。条例は文化遺産や景観にとまらず、庭園文化都市・平泉の歴史的風土を重視するため町内全域を対象としているのが特徴。条例制定を弾みに、中尊寺等の世界遺産登録も目指していく。

生活習慣病の情報を山梨県ホームページに掲載 玉穂町

町は、山梨大学医学部などの協力を得て、生活習慣病に関する情報をホームページに掲載するなど、インターネットを利用した地域医療支援に乗り出している。一月から糖尿病に関する注意点や簡単な自己診断法などを掲載。順次ほかの病気の情報も掲載していく予定。

光ファイバー網の整備新潟県 能生町

町は、町運営のケーブルテレビの通信網を利用して、公共施設

設や事業所、町内約三、三〇〇世帯などを結ぶ光ファイバー網の整備を進めていく。高速インターネットを利用可能とし、将来的には住民票の電子申請や高齢者の安否確認、防災・医療サービスにも役立てていく。

「わが家のISO」制度 富山県 立山町

町は、ISO14001を参考に、省エネやごみ減量など町が定めた三五項目のうち、実施可能と思える五項目以上を各家庭が選り出して実践する「わが家のISO」制度を導入し、推進している。家族みんなで取り組むことで、環境意識の醸成に役立てていくのがねらい。

住民百五十人で政策を長野県 信濃町

合併せずに独自の町づくり推進を宣言した町は、住民一五〇人の「町づくり委員」を組織し、福祉や観光、農業など一〇のプロジェクトチームに分かれて政策を検討している。住民の考えを具体的な政策づくりに生かしていくのがねらいで、九月の提言発表を目指している。

「温泉まんじゅう日本一」を宣言 静岡県 伊豆長岡町

町は、名物の温泉まんじゅうをテーマにした町おこしイベントを開催した。イベントでは「温泉まんじゅう日本一」を宣言するとともに、町ゆかりの著名人を「温泉まんじゅう大使」に任命。町内九軒のまんじゅう製造元をめぐってスタンプを集め

るラリーなどを実施した。

住民情報総合端末で指紋三重県 東員町

住民情報を総合的に管理する独自のシステムを構築した町は、個人情報保護に対する関心が高まっていることから、管理体制を強化するため住民情報の総合端末において指紋による認証制度を導入した。端末を扱う職員を特定して記録に残し、個人情報の漏えいを防止していく。

「空き家バンク」を奈良県 明日香村

大阪にアクセスしやすいものの、古都保存法により新しい宅地開発が難しい村は、定住促進策の一環として既存の空き家情報を提供する「空き家バンク」を実施している。村のホームページなどで公開し、入居希望があつた場合は必要書類の提出を受け、所有者に連絡していく。

行軍推進委員会が岡山県 新庄村

「合併しない宣言」を可決した村は、村民や村議会議員〇Bからなる村長の私的諮問機関の行政改革推進委員会で審議してもらい、「生き残り案」の答申を受けた。答申では補助金などについて廃止や減額などを具体的に提示するとともに、更なる改革を村に求めている。

賃貸住宅建設費の一部山口県 秋穂町

人口増加と定住促進を目的に定住促進条例を施行している町は、賃貸アパートの建設費に対

して床面積一平方m当たり一万円(限度額五百万円)を助成する制度を新設した。また、家屋部分にかかる固定資産税の半額を三年間支給する賃貸用住宅新築報奨金も導入している。

キャラクターの携帯ストラップを作製 佐賀県 大和町

町は、キャラクター「まほろばの里」を基に考案したアニメ風イメージキャラクター「まほろちゃん」の人氣が高まったことから「まほろちゃん」の携帯ストラップを作製した。まちのPRにつながるかと町では期待している。

リゾート施設内に新たな温泉施設を整備 長崎県 伊王島町

町では、町が所有し、ホテル事業を全国展開する民間企業に運営を委託しているリゾート施設「やすらぎ伊王島」内で温泉が湧出したことから、露天風呂や家族風呂などを備えた新たな温泉施設を整備。通年型観光拠点として集客を図っていく。

定住促進に大家さん鹿児島県 串良町

町は、新たな定住促進策として、町有の遊休地に住宅を新築し第三者に貸す「大家さん」を募集した。大家さんとは十五年間の賃貸借契約を結び、約六百万円の建設費用を負担してもらう。大家さんは入居者が支払う家賃収入を得られるほか、十五年後の土地取得も可能となる。

カプセル Now & New

情 報

●●●の視点

現代「食」キーワードは「健康」

フリーライター 奥村理英

●長寿の源「かまとバア茶ん」

長寿世界一でギネスブック認定もされていた鹿児島県の本郷かまとさんが、昨年10月末に亡くなった。享年116歳。「かまとばあちゃん」の愛称で親しまれメディアにもたびたび登場した。

二日寝て、二日起きていたというユニークなサイクルで暮らしていたかまとさんのすごいところは、寝ていてもしっかり食事をし、病院で管だらけになって生きながらえたのではなく、亡くなるまで健康体でいられたことだろう。趣味の島唄と手踊りを陽気に披露していたテレビの映像は、いかにも楽しげでほほえましかった。

長寿の源といえば、かまとさんは、黒砂糖や豚肉、刺身が好物だったほか、とにかく日本茶が大好きで、毎日欠かさず飲んでいたので、生前からそのお茶に関する問い合わせが殺到したので「かまとバア茶ん」という商品名で売られてもいる。かまとさんにあやかっただけのお茶を飲んだからとて、すべての人に長寿が約束されるわけでもないが、長寿と健康は万人の願いだ。

●情報操作に操られ

二コース以外、あまりテレビを見

ない私でも「食と健康に関する情報番組」の類は、つい見てしまう。某民放局で、日曜夜のゴールデンタイムに放映している情報バラエティー番組は「○○を取れば必ず○○に効く」というテーマで高視聴率を得ている。その番組で取り上げた食材は、翌日、首都圏のスーパーで売り上げが確実に伸びるという。

かくいう私も「美肌に効く○○」という番組を見た翌日には、効果ありといわれた食材を探し求める。どれほどの効果があるのか真偽のほどは定かでないし、情報操作に操られていると知りつつも「健康」「美容」というキーワードにはめっぽう弱い。

某食品会社が首都圏男女(15～69歳)1000人に、「食と健康」に関するアンケート調査をしたところ、どの年齢層の男女とも「食生活が健康に及ぼす影響」について関心が高く、日常、野菜をたくさん取る、カロリー取りすぎを控えるなどを習慣化している人が大半だった。「食と健康」への関心が高まりを見せる一方、「食の安全」への意識はまだまだ低いといわれている。

先ごろの所沢ダイオキシン訴訟で、テレビ局が逆転敗訴したのは記憶に新しく、消費者の知る権利と報道の正確性について考えさせられるきっかけになった。「遺伝子組み換

え食品」や「クローン食品」、「食品添加物」に「残留農薬」などなど。これらの言葉は新聞などで目にも慣れ、わかったような気であるが、実際には私の理解はここごく浅く知識もほとんどない。これらについてのわかりやすい情報はあまりにも少ないし、一般の消費者向けに噛み砕いた情報を提供する番組はほとんどない。

賢い消費者になれば、とはよくいわれることだが、賢く消費するには正確な情報が必要。野菜をたくさん取りたいが、残留農薬が気になる。食わずに不健康になるべきか、食べて健康を損なうのか。スーパーで究極の選択に迷う私が、賢い消費者になる道のりは遠い。

●健やかなる食

現代人気食品のキーワードはいうまでもなく「健康」だ。にもかかわらずヘルシーを「売り」にすると売れなくなる商品があると聞いた。現在1年間に約600もの新商品が発売される、売れ筋食品のカップ麺がそれだ。メーカー各社はこぞってスープ・麺ともこだわりの新商品を開発するが、「健康」だけはカップ麺には通用しないらしい。つまり「体にいい」を前面に押し出すと食欲を減退させる恐れがあるという。「ラーメン」といえば背油こってり濃厚派の私には、うなずける話だ。

体の健康は確かに大事だが、食べたいものをおいしいと感じて食べる、心の健康も捨てがたい。心身ともに健やかに食する。それが長寿の最良の秘策かもしれない。

市町村長特別セミナー

― 受講者募集中 ―

市町村アカデミーでは、来る4月15日(木)、16日(金)の2日間、「これからの自治体経営」を重点テーマとして、左記のとおり市町村長特別セミナーを開講します。

受講をご希望の方は、4月2日(金)までに市町村アカデミーに直接お申し込みください。なお、市町村長に限らず、助役、収入役の方も受講できます。

1、日時 記

平成16年4月15日(木) 12時30分から
16日(金) 12時30分まで

2、講演

〔4月15日(木)〕
「安全・安心の地域づくりと自治体の役割」
立正大学文学部助教授 小宮信夫氏
「企業を変える『不安定化理論』」トヨタ式パラダイムシフト
スコラ・コンサルタント・パートナー 金田秀治氏

〔4月16日(金)〕

「構造改革特区と経済活性化」
日本経済研究センター理事長

「日本政治の展望」

日本経済新聞東京本社政治部長 八代尚宏氏

※講演テーマ等については、変更する場合があります。
締切 4月2日(金)

申込書を受理した後、決定通知と併せて必要な事項を連絡します。

4、参加費 10,000円
(宿泊費、食費、図書資料費等を含む)

申込及び問合せ先

市町村アカデミー研修部
〒261-0025

千葉市美浜区浜田1-1
電話 043-276-3126
FAX 043-276-5251

※研修の概要やカリキュラム等は、同アカデミーのホームページでご覧いただけます。(http://www.jamp.gr.jp)

随 想

■豊かな人間関係を

福 井 県
三 国 町 長
坂 本 憲 男随
想

三国町は、福井県下随一の大河である九頭竜川の河口に位置する人口二万四千の町です。越前加賀海岸国定公園の中核である「東尋坊」「越前松島」や冬の日本海の味覚「越前がに」が水揚げされる町として全国に知られております。また、古くから北前船の寄港地として栄え、湊町としての輝かしい歴史と伝統を町民は誇りにしています。

平成九年一月、ロシア船籍のタンカーナホト力号重油流出事故の際には、全国からボランティアや自治体はじめ多くの個人、団体のご支援を受けました。現在は、何事もなかったように元の海に戻りました。人々の熱意と自然の回復力の偉大さに目を見張るばかりです。改めて、全国の皆様に心から感謝を申しあげる次第です。

さて、たいへん残念なことです

が、全国に知られた「東尋坊」は「自殺の名所」というたいへん迷惑なレッテルを貼られ、この地を人生の終焉の地に選ばうとする人が後を絶たず、地元の私たちはたいへん苦慮しています。何とかこのようなことは思い留まっていたきたいと、行政、警察、地元観光業者など一体となって、保護・相談活動など、様々な努力をしておりますが、これといった防止策はなく、行政でできることも限られています。全国でも同じような悩みを抱えた自治体も多いのではないかと思います。

先般、東尋坊で保護され、本町を始め、各市役所などを点々とされ、結局、新潟県で自殺された方がおられました。本町で面談した際に、当町や県の職員が不適切な

言葉を口にしたと、一部の新聞で報道されました。この報道で、当町や観光協会に全国から様々な非難の意見が寄せられ、対応でパニックとなりました。

担当職員からは、就職の斡旋や施設への入所まで勧めたものの拒否され、相談は不調であったものの、言われるような不適切な対応はしていないとの報告を受けておりますし、そう信じております。

職員は、「自殺」という事実に向き合って仕事をしています。以前は、自殺された方が収容されると、担当職員は現場に向いて立会っておりました。言葉では表現できない様々な状況を公務とは言え、否応なく眼の前に突きつけられてきました。このような体験を通して、職員は生命の尊さ、自殺の悲惨さを自分の体に染み込ませております。不用意な言葉を口にすることは、相談者を鞭打つばかりか、自分自身の仕事を否定することであり、また、地道に活動している地元の人たちの努力を台無しにしてしまうことを誰よりも自覚しているからです。

自殺を選択しなければならぬほど追い詰められた身の上に同情は禁じえませんが、少なくとも自殺だけでも思い留まらせる相談相手が身近にいないという現実を

たいへん悲しく思い、また哀れでなりません。

今年の成人式の際に、若い人たちにも申し上げましたが、私が愛読する相田みつをさんが書かれた詩の中に、「生きていて楽しいと思うことの一つ それは人間が人間と逢って人間について話をする時です」という作品があります。相田さんは「人間を動かし、人間をかえてゆくものは、難しい理論や、理屈じゃなく、感動が人間を動かし、出逢いが人間を変えてゆく」とも言われています。人間は一人では生きられません。だからこそ人との出逢いを大切にし、その人が必ず持っている「良さ」を見いだし、学ぼうとすることによって、自分の希望も生まれ、生きる力もわき上がってくるものだと思います。

町づくりも、そうした出逢いを大切にする心から生まれた豊かな人間関係やその人の輪によって育まれた地域コミュニティが基本であると確信しております。

その中で自殺の増加、低年齢化する犯罪や子どもへの虐待の増加等を考える時、地域社会のあり方や役割などを今一度考え直す時代が来ているのではないかと思います。

情 報

政策リーダー

政策リーダー

平成14年度介護保険事業報告書
まとまる ― 厚生労働省 ―

厚生労働省は二月二十五日、平成十四年度介護保険事業状況に関する報告書をまとめた。報告では、第1号被保険者は十三年度二、三二七万人、十四年度二、三九三万人で対前年比七七万人三・三％の増。要介護（要支援、認定者数は二九八万人から一、三四五万人となり対前年比四六万人一五・五％の増。このうち要支援、要介護2の認定者が六三・六％を占める。第1号被保険者に占める第1号認定者の割合は一二・四％から一三・九％、対前年比一・五％の増となっている。要介護度が軽度（要支援、要介護2）の認定率は約六％、一二％以上など約二倍の地域格差がある。保険給付については、費用額が四兆五、九一九億円から五兆一、九二九億円、対前年度六、〇一〇億円一三・一％の増。支給額（利用者負担を除いた額）が四兆八八四億円から四兆六、二六一億円、対前年度一三・二％の増。第1号被保険者一人あたりの支給額は十三年度一七六千円から一九三千円、対前年度一七千円九・七％の増。この支給額は一五万円以下の県や二六万円以上の県などがあり、約二倍の地域格差がある。市町村特別給付の支給額は十三年度七・五億円、十四年度五・九億円、対前年度一・七億円、一二・五％減となっている。

平成14年度都道府県
決算の概況まとまる

総務省は、平成十四年度都道府県決算の概況をまとめ、公表した。決算規模は、歳入総額が対前年度比四・六％減の五一兆四、六四二億円、歳出規模が同比四・六％減の五〇兆五、〇三九億円となっている。また、歳入歳出の差引額から翌年度に繰り越すべき財源を除いた実質収支では、一、三四四億円の黒字となり、実質赤字となったのは、千葉県と大阪府となっている。歳入については、地方税が一五兆五、五六二億円（同比一〇・六％減、地方交付税が一〇兆八、一七八億円（同比二・三％減、国庫支出金が八兆三、〇一五億円（同比一三・二％減）となった一方、地方債収入は七兆五、三一七億円と同比一五・六％の増となっている。歳出については、厳しい財政状況を反映して、人件費が一五兆六、二九六億円（同比一・一％減、単独事業費が四兆三、九七二億円（同比八・八％減）となっているのに対し、公債費は六兆五、九〇三億円（同比一・五％増）となっている。このほか、財政指標を見ると、全国平均で、財政力指数が〇・四一％、経常収支比率が九三・五％（前年度九〇・五％）、起債制限比率が一二・四％（同二・三％）となっており、財政の硬直化が一層進んでいることが見受けられる。

地域再生推進プログラム
まとまる ― 政府地域再生本部 ―

政府の地域再生本部は二月二十七日、地方経済活性化のため国が地方の取り組みを支援する「地域再生推進プログラム」を決定した。同プログラムには、地方自治体等が提案した六七三件の地域再生構想の中から担当省庁が「実施可能」と判断した全国で実施対象となる一一八件と対象地域限定の二三件、計一四一件の措置が盛り込まれている。これにより、全国的に実施可能となる取り組みは、①河川敷でのイベント開催やオープンカフェの設置、②担当省庁別にまちまちだった観光案内標識の表記統一、③市町村合併後も旧市町村名を「区」として表示し等のほか、農政関係では、④農地転用許可申請手続の円滑化、⑤就農支援資金の貸付対象の拡充、⑥バイオマスタウン（仮称）の実現に向けた取り組み等がある。一方、地域限定の措置では、環境保護活動をポイントに換算する「電子エコマネー」などの地域通貨モデルの導入を支援するほか、国の補助金で建設された学校が廃校となった場合に地域交流施設などに活用できるような補助金制度の運用を弾力化することなども盛り込まれている。なお、具体的な手続きは、自治体側はプログラムで認められた措置の範囲内で地域再生計画を作成し五月に申請、政府が六月にも認定する。また、これに伴う地域再生推進関連9法案も今国会に提出される。

くつろぎと機能性が調和する 都心の快適空間です。

官公庁ビルの立ち並ぶ霞ヶ関のほど近く、都心にありながら、

喧騒を離れた、心落ち着ける空間として全国町村会館は

多くの皆様にご利用いただいております。

静かでゆったりとした客室に、味わい豊かなお料理。

一流ホテル(帝国ホテルグループ)との提携による

上質なサービスで皆様をお迎えいたします。

町村主催の各種行事に

自治大学校などの交友会に

職員旅行・家族旅行に

小・中学校の東京での行事参加に

やすらぎを大切にした客室

客室は、静かさと心地よさに配慮し、全室を7階以上に配置いたしました。室内インテリア全体を落ち着いた雰囲気にとめ、ゆったりとしたやすらぎのひとつをお過ごしいただけます。また、会議室やホール、レストランと和食処、ホテルショップなどの施設も充実しております。

土・日・祝日で宿泊は、
通常料金より20%割引でご利用いただけます。

※金曜のご宿泊にも、通常料金の15%OFFにてご利用いただけます。

シングル 131室 通常料金 8,500円より ツイン 18室 通常料金 16,000円より

シングル 6,800円より ツイン 12,800円より



シングル

ご予約・お問い合わせは

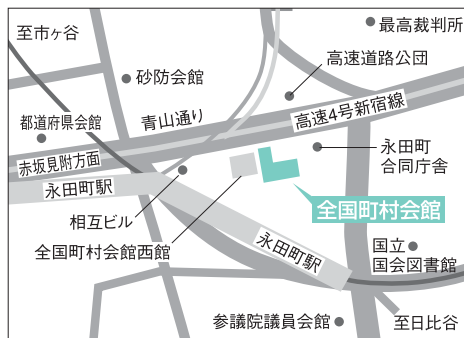


都心に近く便利なロケーション

東京での活動拠点として最適なロケーションです。会議や研修、パーティーなど用途に応じて幅広くご利用いただけます。

※宴会場ご利用のお客様の地元特産品などの持ち込みは自由です。

※ご宴会のお料理は、ご希望とご予算に応じてご用意いたします。



【交通案内】
 ■有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
 ■丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩5分
 ■タクシー 東京駅から約20分

東京観光地への アクセスガイド

- 東京ディズニーランド／地下鉄永田町駅からJR舞浜駅まで約34分
- 浅草／地下鉄赤坂見附駅から浅草駅まで約27分
- 東京タワー／地下鉄永田町駅から御成門駅まで約25分
- 東京ドーム／地下鉄永田町駅から後楽園駅まで約10分
- 東京都庁展望台／地下鉄赤坂見附駅から新宿駅まで約10分

市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。



全国町村会館

TEL:03(3581)0471 FAX:03(3581)0220

〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号 <http://www.zck.or.jp/kaikan/index.html>